

II 委員会活動から II

e ラーニング特別委員会報告

eラーニング特別委員会は、平成17年より2ヵ年の時限で特別委員会の活動を進め、平成18年度でその幕を閉じる予定である。現在、その活動報告をまとめるにいたって鋭意検討中である。今回は、その進捗の一部と北海道支部とも連携を進めている日本技術士会（東京）「Pe-CPDシステム」の概要を併せて報告する。

1. 「活動報告のまとめ」にあたって

(1) 取り組みの方向

- ① 運用の目的は、「科学技術創造立国」の実現のために技術士の社会貢献」に寄与し、その向上を図る。
- ② 技術士のモチベーションの向上策として、CPDとの連動、技術士試験対策などの向上に寄与する。
- ③ 東京本部・支部・協議会等との連携・共有体制などとの連携手段とする。

(2) 構築に向けた推進プログラム

① オンデマンド型システム

技術士のCPD向上などに向けて、従来から検討を進めてしてきた北海道方式システムと東京方式（Pe-CPDシステム）を述べる。東京方式については別項で詳述し、実施にあたっては、双方の適宜運用



オンデマンド型 北海道方式

を考えている。

さて検討を進めてきたオンデマンド型北海道方式は、以前にも紹介したが講演会等において、ビデオ撮影しプレゼンと会場講演内容をビデオにて同時収録し編集する。東京方式（Stream Author）は、会場ではプレゼン画像と音声収録のみであるが、編集なしで収録が簡易にできる。

② インターネットを用いたライブ型

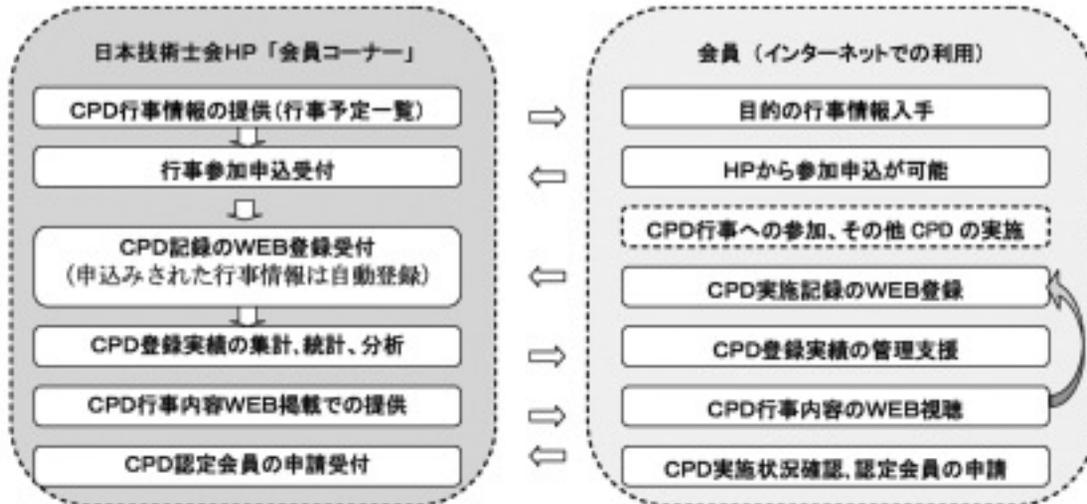
ライブ型の検討は、札幌から多拠点実験を進めてきた。一つは、第31回全国大会で実証実験を試した高精度ライブシステムである。この方法は確実な精度が期待できる。しかしその運用は、コスト的に難点を抱えている。もうひとつの方式は、テレビ会議や学習塾などで用いられる簡単かつ容易な「ネットミーティングシステム」である。検討する報告書では、実証実験内容も加え、「ネットミーティングシステム」を詳述する。



ライブ型 ネットミーティングシステム

(3) 東京方式「Pe-CPDシステムとは？」

日本技術士会会員に方々は、会誌「PE-平成19年1月号」でご承知のことと思う。本システムは、北



日本技術士会 Pe-CPD システム概要

北海道支部当委員会の「eラーニングの取り組み」を同時に本部と連携し、実施に至っているものがある。北海道支部では、全国に先駆けて本部システムとの更なる連携を図り、その運用を進めたいと考えている。

「Pe-CPD システム」は、ソフトウェア「Stream Auther」を用い、手軽にファイル化できる。このメリットは、会場でのプレゼン画像収録と音声収録を行って自動的に編集されるメリットがある。但し、このシステムは、日本技術士会会員のみが参加可能となる。

さて、「Pe-CPD システム」の概要を述べる。

「Pe-CPD システム」とは、CPD 情報の提供から、実施・記録・登録・管理まで一貫して、インターネット技術 (e) の活用のもと、会員パスワードや暗号化によってセキュリティを確保しつつ、効率的に会員 (PE) の方の CPD 実施を支援するシステムである。煩雑な会員カードの利用等は行わず、CPD 行事の参加実績を簡便に登録することが可能となる等、画期的なシステムとなっている。

(イ) 利用にあたって

利用にあたっては、日本技術士会会員を条件に会員パスワードの取得が必要である。日本技術士

会ホームページの会員コーナーから、申請できる。

CPD 行事内容の WEB 聴取など一部の機能は、一定仕様以上のインターネット環境が必要な場合がある。まず、「Pe-CPD」をクリックする。

- (ロ) CPD 行事予定から行事情報の入手会員の方は、当会 HP の会員コーナーの「CPD 行事等予定」にアクセスすること。ただし、トップページの一般 CPD 行事案内は、会員以外の一般者向けである。強化された「検索機能」を利用して、目的の行事予定を選ぶこと。それらは、主催者の他、行事名、内容などからの自由検索も可能となっている。

(ハ) 行事予定からの行事参加申込

- ① 行事参加の「申込」ボタンのついている行事は、氏名記入など不要で簡単に申し込める。この方法によれば、FAX、eメール、ハガキ等による申込も不要となる。また受付後、システムが確認 eメールを送信される。申込後の変更も、HP から同様にできる。
- ② WEB 申込された行事情報は、CPD 登録の際に自動登録できるので、入力が簡便となる。

(文責：eラーニング特別委員会 委員長 松井 義孝)